

今週（3月1日から3月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、資金不足日が多かったことに加え、積み期間後半に入ったこともあり、無担保コールO/N加重平均レートは上昇基調で推移した。無担保コールO/N物は、国内勢の調達を中心に▲0.035～▲0.004%のレンジでの出会いで始まり、2日以降は調達レートを切り上げる動きが見られ、週末にかけて上昇していった。3日積みとなる週末5日はさらに調達レートが上昇し、▲0.02～▲0.005%のレンジでの出会いで推移した。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.01%近辺での出会いが散見された。日銀当座預金残高は、約490兆円から始まり、3日の法人税・年金保険料揚げを受け、週後半は480兆円台前半まで減少した。

●レポ市場

今週の債券レポ市場は、投資家のオファーニーズが旺盛にみられ、レートは徐々に上昇していった。1日のT/Nは▲0.095～▲0.085%での出会い。2日は▲0.09～▲0.085%の出会い。その後も同水準の出会いが続いていたが、4日には▲0.085～▲0.075%と上昇し、週末の5日は短国の発行日にかかる取引となったことでさらに上昇し、▲0.08～▲0.07%の出会いとなった。

SCについては、個別銘柄では5y140～145、10y354～361、20y169～175、30y68～69、40y13にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は動意に乏しい展開となったものの、日銀の点検に対する様子見姿勢からか短国需要は底堅く、レートは3M物で▲0.110%、6M物で▲0.120%、1Y物で▲0.135%近辺と、やや堅調に推移した。

2日に実施された短国買入オペは、前回と同額の15,000億円でおファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.002%と、やや弱めな結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.105～▲0.103%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1035%、按分落札利回▲0.1005%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、入札案件に乏しく、大型の案件も特段見受けられなかった。ノンバンクを中心に発行が行われる中、調達頻度がさほど高くない建設業態の数社から相次いで3月償還物が発行されるなど、資金繰りとしての発行が中心となった。週間の発行総額は2,000億円にとどまったのに対し、償還は約3,000億円と償還超となった。発行総残高は、良好な発行環境の中、コロナ禍ということもあって高水準は維持されているものの、足元の発行が少ないことから25兆円台を割り込むなど、減少傾向にある。発行レートは、担保確保の買いが非常に強く、銘柄によるバラつきが大きいものの、全体的にレートは低下基調となっている。発行残高の少ない銘柄では期間に関わらず低位で推移しており、下限を探る動きが見られていた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/1 (月)	29,663.50	0.150	106.48	△ 0.024	△ 0.090	4,900,600
3/2 (火)	29,408.17	0.125	106.85	△ 0.022	△ 0.088	4,887,500
3/3 (水)	29,559.10	0.115	106.85	△ 0.020	△ 0.086	4,829,800
3/4 (木)	28,930.11	0.135	107.04	△ 0.016	△ 0.080	4,830,100
3/5 (金)	28,864.32	0.085	107.88	△ 0.014	△ 0.076	4,823,100

来週（3月8日から3月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
3/8 (月)	1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)			1月の米卸売売上高
3/9 (火)	1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 2月のマネーストック(日銀 8:50)	TB6M 34,000億円 3/10発行	5Y 25,000億円 3/10発行	10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/10 (水)	1月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)			2月の米財政収支 2月の米消費者物価指数
3/11 (木)	2月の企業物価指数(日銀 8:50)	20Y 12,000億円 3/12発行		ECB定例理事会(金融政策発表)
3/12 (金)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	TB3M 67,000億円 3/15発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 3/22借入	2月の米生産者物価指数 3月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/8 (月)	300	3,300	3,600	国債買入 CP買入 国債補完		▲ 100 100	12,100 12,100	15,700	TB3M発行▲67000償還68900
3/9 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	交付税借入▲10500期日10000
3/10 (水)	0	▲ 29,000	▲ 29,000	全店共通	▲ 4,000		▲ 4,000	▲ 33,000	TB6M発行▲34000償還29700 5Y発行▲25000
3/11 (木)	0	4,000	4,000				0	4,000	
3/12 (金)	▲ 1,000	▲ 12,000	▲ 13,000	社債買入		2,500	2,500	▲ 10,500	源泉税揚げ 20Y発行▲12000 交付税借入▲10500期日10000
週間合計	▲ 700	▲ 31,700	▲ 32,400	—	▲ 4,000	14,600	10,600	▲ 21,800	

3/8は日銀予想、3/9以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの終盤を迎え、着地に向けた調達ニーズの増加が見込まれることから、無担保コールO/N物加重平均レートは上昇傾向で推移するものと予想される。また、9日には「2021年3月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。新型コロナウイルスオペの金額次第ではあるが、第三次補正予算にかかる各種コロナ対策の支払いが大量に行われることもあり、基準比率は現在の11.5%から16.0~17.0%程度に引き上げられると予想する。レポ市場は、引き続き資金調達ニーズが厚いことが予想され、GC T/Nは▲0.08~▲0.07%程度での推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、10日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、特段のイベントは無い。発行レートの動向に注目したい。

主要なイベントは、国内では9日に10-12月期のGDP 2次速報、海外では9日の10-12月期のユーロ圏GDP確報値、10日の米国CPI、11日のECB定例理事会等が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入